

## 平成 27 年度 第 44 回 大谷竹次郎賞授賞式



前列左より) 市川猿之助丈、横内謙介氏、大谷信義松竹株式会社社長、今井豊茂氏、中村獅童丈

1 月 25 日 ( 月 )、新作歌舞伎の優れた脚本に贈られる大谷竹次郎賞の平成 27 年度第 44 回授賞式が行われ、受賞作の脚本を担当した『あらしのよるに』の今井豊茂氏と、スーパー歌舞伎 II (セカンド)『ワンピース』の横内謙介氏に、松竹株式会社大谷信義会長より賞状と賞金が手渡されました。今回のような 2 作品同時受賞は、昭和 54 年度第 8

回の『山椒太夫』(宇野信夫氏脚本)と『黄金の日々』(市川森一氏脚本)以来、実に 36 年振りの事で、それぞれの作品に主演した中村獅童丈、市川猿之助丈のお二人も授賞式に出席して下さいました。

副賞として渡される松竹大谷図書館賞の記念レリーフ(荒川明照氏作)は今年の第 43 回『壽三升景清』(脚本:川崎哲男氏・松岡亮氏)につづいて、今回も受賞者が 2 人という事で、2 点制作されました。このレリーフは陶製の皿に鑄造された鳳凰が取り付けられたもので、制作者の荒川明照氏によると、パーツを留めあわせるのに、弾力性のある竹製の釘で、敢えて少し緩めに留めて、異なる素材が膨張しても壊れないように工夫がしてあるそうです。



■ 松竹系 1月演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『廓三番叟』				
	『義経千本桜 鳥居前』	○			
	『梶原平三誉石切』	○			
	『茨木』	○		○	○
	『猩々』				
	『二条城の清正』	○			
	『廓文章 吉田屋』	○			
	『雪暮夜入谷畦道 直侍』	○			
新橋演舞場	『菅原伝授手習鑑 車引』	○	○		
	『弁天娘女男白浪 白浪五人男』	○	○	○	○
	『七つ面』	○	○		
新橋演舞場 地下食堂「東」	『第二回フラメンコと和の出会い』	○			
浅草公会堂	『三人吉三巴白浪 大川端庚申塚の場』	○			
	『土佐絵』	○			
	『与話情浮名横櫛 源氏店の場』	○		○	○
	『毛抜』	○			
三越劇場（日本橋）	『糸桜 黙阿弥家の人々』		○	○	○
	『新年踊り初め』		○		
松竹座（大阪）	『鳴神』	○			
	『枕獅子』				
	『らくだ』	○		○	○
	『桂川連理柵 帯屋』	○			
	『研辰の討たれ』	○			
	『芝浜革財布』	○			
南座（京都）	『えくぼ』	○		○	○
	『浪花の夢 宝の入船』	○			
	前進座『夢千代日記』			○	○

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

あうるすぽっと	1月	花組芝居『毛皮のマリー』プログラム、台本
大阪新歌舞伎座	12月	『放浪記』プログラム
		『天童よしみ師走公演』プログラム
国立劇場小劇場	1月	『川中美幸新春公演』プログラム
	12月	『文楽公演』プログラム、床本
		『文楽鑑賞教室』プログラム
国立劇場大劇場	1月	『邦楽公演 文豪の聴いた音曲』プログラム
シアタークリエ	1月	『ミュージカル ドッグファイト』プログラム
中日劇場	1月	『細川たかし・中村美律子新春特別公演』プログラム
博多座	1月	『放浪記』プログラム、ポスター
博品館劇場	1月	見上げたボーイズ『THE STOMACH』プログラム
明治座	1月	『伍代夏子・藤あや子新春特別公演』プログラム

(新着資料案内 続き)

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『の・ようなもの のようなもの』	○	○	○		○
『残穢【ざんえ】 住んではいけない部屋』	○	○	○		○
『新劇場版 頭文字 [イニシャル] D Legend 3 夢現』	○				○

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■

- 『白鯨との闘い』
- 『ブラック・スキャンダル』
- 『ビューティー・インサイド』
- 『信長協奏曲』
- 『ピンクとグレー』
- 『完全なるチェックメイト』
- 『オデッセイ』
- 『映画 妖怪ウォッチ エンマ大王と5つの物語だニャン!』
- 『尾崎支配人が泣いた夜 DOCUMENTARY of HKT48』
- 『道頓堀よ、泣かせてくれ! DOCUMENTARY of NMB48』
- 『エージェント・ウルトラ』
- 『スター・ウォーズ/フォースの覚醒』
- 『クリムゾン・ピーク』
- 『シーズンズ 2万年の地球旅行』
- 『イット・フォローズ』
- 『ストレイト・アウタ・コンプトン』
- 『映画ちびまる子ちゃん イタリアから来た少年』
- 『ザ・ウォーク』
- 『傷物語 I 鉄血篇』
- 『パディントン』
- 『人生の約束』
- 『ブリッジ・オブ・スパイ』
- 『フランス組曲』

■ 演劇雑誌 ■

- 『Confetti』2016年 FEBRUARY, MARCH
- 『Confettiかわら本』2016年1月号
- 『DRAMAかながわ』2015年(73号)
- 『JATE』2015年-2016年No. 78
- 『JPL』2016年 Winter No. 60
- 『SEPT倶楽部 information』2016年1月号
- 『あぜくら』2016年1月号
- 『てがみ座通信』第6巻
- 『ひろば』2016年136号
- 『シアターガイド』2016年3月号
- 『ジ・アトレ』2016年1月
- 『ステージぴあ』2016年1+2月号
- 『ステージぴあ関西版』2015年11月+12月号, 2016年2月+3月号
- 『テアトロ』2016年2月号(914号)
- 『ミュージカル』2016年1月-2月号
- 『やぐるま』7号
- 『ラ・アルプ』2016年2月号
- 『演劇ぶっく』2016年2月号
- 『演劇界』2016年3月号
- 『花道』36号
- 『喝采』2016年4月, 5月
- 『義太夫』102号
- 『芸劇BUZZ』2016年1月-2月-3月号
- 『国立演芸場公演ガイド』平成28年2月号
- 『上方芸能』2016年3月
- 『大向う』平成28年2月号
- 『長唄』118号
- 『伝統文化新聞』2016年(116号), 新年号
- 『日本芸術文化振興会ニュース』平成28年2月号
- 『日本照明家協会誌』2016年1月号
- 『日本舞踊』68巻2月号
- 『文化座』174号
- 『邦楽の友』平成28年2月号

■ 映画雑誌 ■

- 『SCREEN』2016年3月号
- 『キネマ旬報』2016年2月上旬号, 2月下旬号キネマ旬報ベスト・テン発表特別号
- 『シナリオ』2016年3月号
- 『シナリオ教室』2016年2月号
- 『シネ・フロント』2016年1月号
- 『ドラマ』2016年2月号
- 『映画テレビ技術』2016年2月号
- 『映画ビジネス』平成27年11月下旬号
- 『映画秘宝』2016年3月号
- 『衛星劇場プログラムガイド』2016年2月号
- 『黒澤明研究会誌』2015年34号
- 『日経エンタテインメント!』2016年2月号
- 『文化通信ジャーナル』2015年4月号, 6月号, 7月号, 10月号, 12月号
- 『友 Iwanami Hall』2016年冬号

≫≫ 新規登録資料案内 新しく登録した資料をご案内いたします

■ 書 籍 ■

『黒澤明という時代』	小林信彦（著）	文藝春秋
『ジェームス・ディーンの向こうに日本が視える』	明石散人（著）、篠田正浩（解説）	講談社
『銀幕の即興詩人 清水宏の生涯と作品』	窪田守弘（著）	風媒社
『女優岡田茉莉子』（文庫版）	岡田茉莉子（著）	文藝春秋
『ショーケン』	萩原健一（著）	講談社
『小津の魔法つかい ことばの粋とユーモア』	中村明（著）	明治書院
『由美かおるラビアンローズ 夢がいっぱいわたしの人生』	由美かおる（著）	メディアックス
『のど元過ぎれば有馬稲子』	有馬稲子（著）	日本経済新聞出版社
『物語 北野武』	北野武（著）	ロッキング・オン
『生きているかぎり 私の履歴書』	新藤兼人（著）	日本経済新聞出版社
『京都太秦物語』	山田洋次+佐々江智明（脚本）、阿部勉+稲光宏子（ノベライズ）	新日本出版社
『ノベライズ おとうと』	山田洋次+平松恵美子（脚本）、稲光宏子（ノベライズ）	新日本出版社
『思えばいとしや”出たところ勝負” 小沢昭一の「この道」』	小沢昭一（著）	東京新聞
『この小劇場を観よ!2013』（『ユリイカ』2013年1月号）		青土社

≫≫ 資料提供（2015年12月～2016年1月）

※許可を得た方のみ掲載しております

放送

- 『あの人に会いたい 坂東三津五郎』 2015年12月5日 5:40～5:50 NHK 総合テレビ（再放送あり）  
平成27年1月浅草公会堂「第9回浅草歌舞伎」のポスターを提供

出版

- 日本大学文理学部国文学科卒業論文「江戸文字について～勘亭流を中心に」（永田萌衣） 2015年12月18日提出  
明治24年歌舞伎座筋書2冊と上演台本『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』の表紙、及び義太夫稽古本『時雨の炬燵』を論文の記事に提供
- NHK ラジオテキスト「こころをよむ」2016年1～3月号『これが歌舞伎だ！～極みのエンターテインメント』  
金田栄一（著） 2015年12月25日 NHK 出版  
芝居番付「嘉永三春の顔見世」を提供
- 『婦人画報』2016年3月号 2016年2月1日 ハースト婦人画報社  
『棒しばり』大正8年6月歌舞伎座上演のスチール写真2枚を記事に提供

その他

- 2015年度歌舞伎学会秋季大会研究発表「福地桜痴試論『侠客春雨傘』をめぐって」（村島彩加）2015年12月13日 学士会館  
歌舞伎台帳『侠客春雨傘』を学会発表の中での映写に提供

## \*\*\* 専門図書館協議会イブニングセミナー 「専門図書館情報発信～ライブ動画配信をやってみよう～」に参加して\*\*\*

開催日時：平成 27 年 12 月 11 日  
午後 18 時半～20 時半  
場所：日本図書館協会  
参加者：武藤祥子、酒井恵

「図書館における動画配信」。  
普段の生活の中で、もちろんパソコンを使って仕事はしているものの、機器のセットアップなども含め、なかなか思うように出来ない私が、この高度なタイトルのセミナーに行っても話についていけないのだろうか、そんな不安を抱えながら、松竹大谷図書館の IT チームの武藤さんと一緒に受講することに。



会場に着くと、受講予定者は 20 名。  
今回の参加者の割合は、各図書館で IT 担当をしている人はごくわずか、ほとんどが動画配信はおろか、IT 関連にはあまりふれてない人の方が多かった。そんな中、千葉大学アカデミック・リンク・センター特任助教の小野永貴先生による講義がスタート。

「組織として動画配信をするなら、少しでもいいので、一人でも多く見てもらえるものをつくりたい。今日のセミナーは、動画を配信したい！と思った時のための、単語を知る、まさにきっかけづくりの時間です」普段、学生たちと向き合い、授業をしていることもあって、話はとてもわかりやすく、テンポよく進行するので、ぐいぐい講義の内容に引き込まれていく。

「一見、難しそうだが、動画配信は実は簡単。必要な道具はパソコンとカメラのみ。5 分もあれば準備完了！」

まずは、「図書館におけるソーシャルメディアを用いた情報発信の意義」から。

これまでは別々に使われていた、開館日やアクセスなど、図書館への来館者告知用の HP と、館内の蔵書検索に使われていたシステム OPAC。

今までは別々だったこの二つのメディアが今では一緒になり、HP の中で蔵書検索ができるなど、形態がどんどん進化し続けている。

より、利用者が使いやすいメディア（ブログやツイッター、フェイスブック、LINE など）を使って、情報発信していく各館の特色ある活動の実例が紹介された。

時代の流れに沿って、みんなが使いやすいメディアのツールを選択するということと合わせて、例えば、「本日の開館時間は 10 時～17 時までです」など、どんなに短いコメントであったとしても、回数を多く、情報を発信・更新し続けていくことが大事なのだという。

次は、「動画による図書館情報発信の事例」ということで、動画配信することの、強みや良さ、文章で発信することとの違いなどを学ぶ。

1. 手話の映像も合わせて流せる
2. 検索の仕方を一緒に体験しているかのように伝えられる
3. 定員に達してしまった講座なども当日ネット配信をすれば、誰でも見ることができる

これ以外にも、ポイントがあった。それは「微妙なニュアンスを動画なら伝えやすい」ということ。いくつか例を挙げると、例えば、入口のゲートに、カードをかざして、ゲートが開き入場できる図書館。私たちの生活の中でも駅の改札などで一見なじみの深い行為で誰でも簡単にできそうに感じるが、ゲートにひっかかる人がかなり多くいるのだという。

その最大の原因は、“ゲートの開く時間の違い”。

普段慣れている駅の改札のゲートが開くまでの時間よりも、図書館のゲートの方がわずかに遅いため、改札を通る感覚で歩くとつまずいてしまうのだ。

この身体に染み込んだ速度との差は張り紙をしても効果が少ないのだが、図書館の入口からの入場シーンを動画で配信したところ、このわずかな差が絶妙に伝わり、ゲートにつまづく人も減ったのだとか。

それ以外にも、大学の授業選びの際に使われている“シラバス”。授業の進め方などが、紹介されているが、どんな先生なのか、掴みづらい。

その点、動画で先生自身が授業の紹介をすれば、先生の顔はもちろん声や、雰囲気まで、様々な情報をいっぺんに知ることができる。

3番目は「動画配信技術を理解するための基礎知識」について。

今後、動画配信をしよう！と思った時に、知っておいたほうが良い、カメラやパソコン、技術、ネットワークについての説明を受けた。

使用するカメラによっても、明るい場所での撮影に適しているものや、ズーム機能はないが、手軽にできるものなど、その特色が変わってくる。自分たちがどんな動画を撮影したいのかということによって、カメラを選べば、よりスムーズに作業ができることや、動画はデータの使用量が大きいので、できるだけ、速度の速い回線を使った方が便利ということなど、実践に役立つポイントがたくさんあった。

動画撮影の作業とは直接的な関係は薄いですが、パソコン関連の用語の解説もしてくれた。

例えば、「USB」という単語。思わず、データを保存するための「USBメモリ」を思い描いてしまうが、実はPCなどの機器に差し込む接続規格を指す。これ以外にも「解像度」と聞くと漠然と画像の綺麗さに関わる度合かな？くらいの認識しかなかったが、一つの画像を縦横何分割ずつ区切るのかという意味で、その分割数が多ければ多いほど、画像が綺麗に見えるようになることなのだというのを改めて知った。

4番目は、「代表的な配信サービスを用いた動画配信方法の実際」という題で、その名の通り、「You Tube(ユーチューブ)」、「Ustream(ユーストリーム)」、「Google ハングアウトオンエア」、この三つの代表的な配信サービスを使って、実際に先生が動画配信を実演！

“You Tube”は人が投稿した動画を見たり、自分で撮った動画を保存・投稿して公開できたりする。

“Ustream”は生中継に特化している。

“Google ハングアウトオンエア”は同じ場所にいない人同士が、TV会議をしているように話せる。

そしてその様子も公開できる。



それぞれ特色が違って、まさに三者三様なので、自分たちがやりたいことの目的に応じて、配信サイトを選ぶことが必要。

「細かい仕様は、随時変更されてしまうので、その場所や名称で覚えるのではなく、デザインが変わってもキーワード検索ができるように、基本的な用語を覚えることが大切」

最後に先生が教えてくれた三つの極意。

- ・大事なのは映像より“音”（音が聞き取れないと内容が伝わらないので、満足度が低下し、不満が募る）
- ・権利的なもので批判を受けないように、念入りに許諾確認をとること
- ・失敗はつきもの。大事なのはめげずに強い心を持つこと

説明をしながら、あっという間に動画配信する様子に、今まで、本当にハードルが高くて、自分では絶対にできない！！！！とはなから決めつけていたが、こんなに簡単にできるのか、と心底びっくりしたと同時に、“何がわからないのかさえわからないから、何を質問すればいいのかかわからない”そんな状態から、基本的な用語を知ることによって動画配信が少しだけ身近になった。



図書館の利用者はもちろん、図書館に興味はあるけれど実際に訪れたことがない人や、まだ存在自体を知らない未来の利用者候補の人たちにも、図書館の存在や利用方法などを知ってもらえる可能性が高いツールを使いこなせることは図書館の知名度のみならず、利用価値も高める。

“敷居が高そう”そんなイメージを払拭して、“誰でも気軽に入れる”図書館を目指して、今後自分たちがどう動いていけるのか、を見つめることができたセミナーだった。

## ■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実に永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

**公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。**

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2016（平成28）年1月にご支援いただきました

#### 法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます

### ■ 春期特別整理休館のお知らせ ■

平成28年3月3日（木）より  
平成28年3月16日（水）まで

資料整理のため休館いたします。  
平成28年3月17日（木）より  
通常どおり開館いたします。

### ■ 編集後記 ■

▼36年振りに、2作品同時受賞となった大谷竹次郎賞。『あらしのよるに』で受賞された今井豊茂氏は、10年前の『NINAGAWA 十二夜』で初受賞、その後、一昨年の『新作 陰陽師 滝夜叉姫』（平成25年度）で二度目の大谷竹次郎賞を受賞し、今回で三度目の受賞となりました。当時のニューズレターの編集後記で「是非三度目も！」と書かせていただきましたが、わずか二年後に受賞され、まことに驚くばかりです。これまでの大谷竹次郎賞の最多受賞者は、二度受賞の田中喜三氏と今井氏でしたが、今回の受賞で今井豊茂氏が最多受賞者として大谷賞の記録をぬりかえたこととなります。

そして、スーパー歌舞伎II（セカンド）『ワンピース』で受賞された横内謙介氏は、『新・三国志』（平成11年度）に続いて二度目の受賞となりました。また、スーパー歌舞伎の大谷竹次郎賞の受賞は、『ヤマトタケル』（昭和61年度・梅原猛氏）、『新・三国志』に続いて『ワンピース』で三作目となります。『ヤマトタケル』の受賞が昭和61年度ですから、新しいものと見られているスーパー歌舞伎も、歴史を感じずにはいられませんね。本当におめでとございます！

大谷竹次郎賞授賞式の詳細については、ネットの歌舞伎公式総合サイト「歌舞伎美人」にて1月27日にニュースとして配信されております。是非ご覧下さいませ。

URL : <http://www.kabuki-bito.jp/news/3096>



### ● 利用案内 ●

#### ● 開館時間 ●

平日午前10時～午後5時  
休館日

土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間

※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。

● 閲覧 館内閲覧のみ  
● 入館料 無料

### ● 交通案内 ●

東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分  
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

